

地域と学校の連携・協働

勝央町学校協働協議会

～地域と学校が熟議をとおして子どもの未来を真剣に考える～

コミュニティ・スクールと一体的な推進が求められている地域学校協働活動。  
勝央町では、「勝央町学校協働協議会」として、地域と学校の連携・協働が進められています。

勝央町では、今年度から町全体で「非認知能力の育成」に取り組むことが決まっています。県が推進している「夢を育む教育（夢育）」とも重なり、この力を養うことによって、夢実現につなげ、併せて、学力や体力、社会性を高められたらと考えられています。

これを踏まえつつ、昨年度末に行われた協議会では、情報交換だけで終わらせるのではなく、「熟議の場」が設定されました。

具体的には、「勝央町の子どもたちに、どんな大人になってほしいのか」「そのためには何が必要か」等について話し合われました。改めて、家族のつながりや家族の時間の大切さについて考えを共有しましたが、「家庭・地域・学校」の子どもに関わるすべての大人が、わがまちの子ども達や未来についてみんなで一緒に考える機会をもつことは、今後の活動の具体を考える上でも、とても大切なことであることを再確認しました。



そのためには何か必要？  
夢に向かって粘り強く頑張る子になってほしい。大人がすぐ答えを出さず、しっかり見守り、良いところをほめることが大事ですね。

ふるさとを大切に子どもになってほしいです。昔と違って異年齢集団での遊びの経験や場が少ない。そういった場の提供など、社会教育が大切ですね。

家族以外との関わりも大事だとは思いますが、まずは家庭でしっかり親子関係を築いてほしい。突き詰めるとやっぱり「家庭が大事」なのかなと思う。

勝央町公民館

子どもチャレンジ講座

「きのこの森プレーパーク」

～「他課との連携」で進化！～

勝央町公民館は、勝央町唯一の公民館で、地域住民にとって重要な「学びや集いの場」となっています。今回は、公民館主催講座「子どもチャレンジ講座」の1つ、「きのこの森プレーパーク」について御紹介します。

「きのこの森プレーパーク」は、平成25年に子どもが冒険し遊ぶことのできる場づくり（当時は「冒険遊び場づくり」事業という名称）として始まり、その後、子どもに関する主催講座の1つとして開講している講座です。



これまで小学生とその保護者を対象に行っていた講座ですが、今年度は、役場の健康福祉部と連携し、未就学児も対象に含めることにしました。

これは、勝央町学校協働協議会で「子どもの居場所を増やせないか」という意見をきっかけに、講座をさらに進化させた形となっています。

また、講座運営に関わる人材として「（大学生など）若い力を生かせないか」という意見に対しても、地域人材からの情報

提供をもとに美作大学との連携についても進めることができています。勝央町学校協働協議会での熟議を契機に、他部局・団体との連携により、「子どもの居場所づくり」や「若い世代の人材活用」が叶い、勝央町の子育て世代への支援がさらに充実しています。



講座に参加した乳幼児や小学生、その保護者が、「自由な発想と工夫で自ら遊びを創る」プレーパークでの遊びを通して、挑戦や失敗を経験しながら楽しい思い出をたくさんつくる場になってほしいです。また、年齢を重ねても再び講座に参加し、新たな参加者となつたり、育ち合ってくれることを願っています。

今後も、参加した子どもや子育て中の保護者・地域の支援者が協力し合いながら、「空間・時間・仲間」を共有するコミュニティを、講座の中で築き上げていきます。



★★★★★ 笑顔の仕掛人 ★★★★★

「公民館の未来を語る！」

勝央町教育委員会教育振興部で公民館を担当している藤井です。近年、公民館は従来の生涯学習の拠点的功能や集会機能に加え、まちづくり等の地域活性化の拠点として期待されています。

そういった中で、私たち勝央町の公民館担当者が意識している大切なことが2つあります。1つ目は、「つながり」の仕掛けづくり、2つ目は、10年後・20年後を見据えることです。

公民館講座のカタルバ講座では、中高生が「やりたいこと」を実現していきます。私は、講座を実施する中で、地域の方と繋がるサポートや、いかにMY感（自分事感）をもって中高生が活動できるかを、意識しています。多様な人との交流や体験を通して育まれる、郷土への興味関心や地域のために挑戦する心が、将来的に若者の定住化やまちの活性化につながればと思っています。

公民館で紡がれる「学びや体験のストーリー」がまちの未来を明るくすることを願い、これからも頑張っていきます。



藤井 雄一 主事

自慢の人材紹介コーナー

なかどう かつのぶ ボランティアグループ「きのこの森」メンバー  
中藤 勝信氏 勝央町地域学校協働活動推進員

町有林を整備する事業に関わったことをきっかけに、森とのつながりが始まりました。様々な活動に取り組んでいくうちに、「勝央町に子どもの遊び場を！」との思いが高まり、現在の「きのこの森」を立ち上げました。自然の山をそのまま生かした遊び場ですが、子ども達は何かないところから遊び方を考えています。また、保護者同士の交流の場になっていることが本当に嬉しいです。

また、自らの経験を生かし、何か学校や先生のお手伝いができないかと始めた学校支援ですが、現在は、地域学校協働活動推進員として授業支援や環境整備に関わっています。今は、自分にとっても勉強の機会となっています。学校を訪れた時の「おっちゃん！」の声。子どもたちから、たくさんの元気をいただいています。



**「学び」応援!**

伝統をつなぐ公民館主催講座

奈義町公民館

コロナ禍の今こそ活用!

学びを深める「YouTube」

**横仙こども歌舞伎教室**



YOKO TUBE #3

横仙こども歌舞伎は、奈義町の伝統芸能「横仙歌舞伎(よこぜんかぶき)」の後継者育成のため、平成8年度に開校しました。

毎年、小中学生を中心とした参加者が、地元、横仙歌舞伎保存会の指導の下、11月に開かれる定期公演に向けて稽古に励んでいます。

開校当時は参加者が少なく、保存会の方々の身内の子ども達に頭を下げて、何とか教室に入ってもらい、公演を行って

いましたが、**小学3年生の総合的な学習の時間**に、**地域を知る学習**として授業に取り入れていただいてから、授業をきっかけに興味をもった子ども達が多く入ってくれるようになっていきます。

最初は訳も分からずに見よう見まねで演じていましたが、稽古が進むにつれて演目や所作の意味を理解し、本番では大人顔負けの演技を披露するほどになっており、今では**横仙歌舞伎大公演の顔**ともなっています。

また、最近では、役者だけでなく、太夫(語り)や黒衣、音響や照明にも挑戦したり、休みの日にみんなで大道具を制作したりするなど、裏方としての取組にも視野を広げています。多くの子ども達が和気あいあいと楽しみながら教室を盛り上げています。

新型コロナウイルス感染拡大防止により、全国において、ほぼ全ての生涯学習活動が中止せざるを得ない状況になりました。奈義町ではコロナ禍でも行える活動発表の場として、ユーチューブをはじめとするSNSで本番と同様の発表をアップすることを目標とし、生涯学習活動の継続を促進しています。

この新しい活動発表を機に、今までユーチューブやSNSに興味を示されていなかった方々もネット配信に興味を持たれ、今まで以上に様々な活動を熱心に視聴していただけるようになりました。

今後も、**子ども達の活動を中心に配信し、なぎっこの学びと成長をお届けします**ので、楽しみにしてください。



【こども太鼓教室】  
一年間発表の機会がなかったこども太鼓教室を無観客で撮影し、「オフショット」と共に紹介しています。

**続々発信! 「おすすめYouTube動画」**



YouTube  
なぎの子じゅくチャンネル

体験教室は参加者を限定して、体験レポートをしてもらい、その様子を投稿しています。

★★★★ わたしのモットー ★★★★★  
**「コロナでも活動を止めない」**

昨年からのコロナ禍とも呼ばれる状況のなかで、生涯学習、伝統芸能などの活動は多くが停滞をしました。

しかし、今までできなかったことなどに時間をさける良い機会にもなりました。今年度のこども歌舞伎では、地元につながる昔話を脚色した創作歌舞伎に挑戦し、大道具、小道具や衣装まで保存会で手作りをし、演出にも子ども達のアイデアが盛り込まれています。普段の活動やメイキングの様子も撮影し、動画編集も自ら行っています。

多くの方に視聴いただき、高評価がいただけることが、大きな励みとなっています。ぜひ応援よろしくお願ひします。



奈義町文化センター  
寺坂 信也 さん

**自慢の人材紹介コーナー**

**小学生「なぎっこお話隊」も体験!**  
～学校園との連携・協働～

「奈義町の民話を語り継ぎたい」という思いから、平成19年に「なぎ昔話語りの会」を発足し、四季の定期公演も数えて47回目となりました。令和2年度は、コロナ禍のために春・夏・秋・冬と1年間公演ができませんでしたが、今年の春公演では、小学生3人が「なぎっこお話隊」として昔話に挑戦し、盛り上げてくれました。これからも活動を継続し、アフターコロナには人から人への温もりが伝えられる時を取り戻したいと願っております。



なぎ昔話語りの会  
代表 入澤知子さん